

■ R7 年度 第 2 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会 議事録

- 日 時：R8 年 2 月 2 日(月) 13:30 ~ 16:00
- 場 所：香南市役所 6F 604・605
- 出席者(委員)
石筒委員長・石丸委員・小笠原委員・門田委員・國常委員・高木委員・上田委員
廣岡委員・森委員・江口委員・別府副委員長・古川委員<オンライン> (12/15)
- 出席者(市行政)
濱田市長・三木教育長
企画財政課(門脇課長・近藤補佐・小林係長・金城主査)
地域支援課(小川課長)・健康対策課(伊藤課長)・福祉事務所(山下所長)
商工観光課(萩野課長・山本係長)・農林水産課(小松課長)・学校教育課(小松課長)
住宅政策課(浜田課長)・こども課(猪原課長)

(事務局 小林係長)

お時間になりましたので、ただいまから、R7 年度 第 2 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を開催いたします。

本日は、ご多用のところ、本委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、ご挨拶が遅くなりましたが、本年もどうぞよろしくお願いします。

それでは、本日の委員のご出席について共有させていただきます。

本日は、中道委員、北委員、北山委員の 3 名より、ご欠席の連絡をいただいております。

また、古川委員は、オンラインによるご出席をいただいておりますので、よろしくお願いします。

本日の会は、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会設置条例 第 6 条第 2 項の規定に基づき、半数以上の方にご出席をいただいておりますので、成立いたしますことをご報告いたします。

それでは、開会にあたりまして、濱田市長よりご挨拶申し上げます。

(濱田市長)

本日、この委員会のご案内をさせていただいたところ、このように多くの皆さまに参加していただきまして、また、この寒い中、そして昼間の貴重なお時間を頂戴いたしますことにまずもって感謝申し上げたいと思います。

御承知のとおり、新聞報道にもありましたが、高知県の出生数のデータが出まして、高知県の 2025 年の出生数、日本人のみになりますが、過去最少を更新し、3,072 人ということで、非常に厳しい状況の中、県も様々なことをされておりますが、市町村別にみますと、本市はありがたいことに前年を上回りまして増えているという現状です。

これは高知市もそのような状況でした。

このように、皆さまのおかげもありまして、一定人口数において、出生数という形では、人口の維持というものが図られております。

県の人口減少対策総合交付金については、本市は約 9,500 万を残していますが、出生数が上がるということは、いかに香南市のポテンシャルが高いかということになるのかなという部分を感じております。

その中において、ご承知のとおり、本市は、財政状況が非常に厳しく、来年度からさらに改善するために、集中改革プランも始動していくわけであります。

このような現状において、本市はアクセルとブレーキを一緒に踏むような状況で、財政当局と企画当局が大変苦勞しておるとい状況であります、その中においても、まさに未来戦略が、このアクセルとなり、さらに、その中心になって、未来に向かって進む、まさに道しるべの役割を果たしていただきたいと私自身は感じておりますし、限られた資源・資産の中において、ここで出された意見や案、そしてまたこの委員の皆さまのお考えというものをしっかりと集約いたしまして、香南市が香南市であり続けられるように歩んで参りたいと思いますので、引き続き、様々なご意見等を頂戴できればと思います。

なお、この後、南国市、香美市と3市で、総務省のほうに、来年度の特別交付税の要望活動に行き参りますので、この会の途中で退席をさせていただきますが、委員長を初め、様々な皆さまおられますので、どうぞ闊達なご意見、そしてまたご議論を展開していただくように、心よりお願いを申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局 小林係長)

ありがとうございました。

なお、市長におかれましては、本日は、公務の都合上、進行途中で退席をさせていただきますことをご了承ください。

それでは、ここからは議事に移らせていただきます。

まず、委員の皆さまには郵送やメールにて本日の資料をお送りさせていただいておりますが、本日資料がない方はいらっしゃるでしょうか。

また、本日追加資料としてA4の資料を2枚、机に置かせていただいております。

このうち、当日資料1とあります資料は、本日の議事2の新成人に向けたアンケートの結果の説明資料となっておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、オンラインで参加の委員におかれましては、後ほど、書類を共有させていただきますのでご了承ください。

それでは、ここからの進行につきましては、石筒委員長にお渡しをさせていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(石筒委員長)

それでは議事に入らせていただきます。

本日の議事は4つになります。

1つ目は、「香南市未来戦略」に関する各事業の10月末までの、一部、11月末、12月末とありますが、基本10月末までの取り組み状況について、まずは、みなさまと共有をさせていただきます。

一旦休憩をとった後、2番目、先ほど、別紙の資料がありましたけども、アンケートが2つありますが、今年度実施した、34歳以下の比較的若手の香南市役所職員の方へのアンケート調査と、それから新成人に対して行った調査がありますので、その結果の報告とそれを踏まえて、(3)番目に、今、来年度の取組について、ご説明いただいた後、皆さまからまたご意見等を賜りたいと思います。

最後に、未来戦略の改定が若干あります。

それも、事務局から説明した上で、皆さんに採決等をいただくという形で進めさせていただきたいと思います。

それでは、早速議事の1番目今年度の進捗状況について、事務局よりお願いいたします。

(事務局 小林係長)

それでは説明に入る前に、共有といたしまして、毎度のこととなりますが、本日は先に資料をお送りさせていただいておりますことと資料が多くなってございますので、少し割愛して説明をさせていただきますことをご了承ください。

それでは、まず、資料 5 をご確認ください。

こちらは、本日の最後に、皆さまに変更の内容をご確認いただき、その承認をいただきたいと考えている資料になりますが、既存の未来戦略の内容も記載されていますので、まずは、この中身の確認をさせていただきます。

5 ページをお願いします。

当戦略は、上段の目指すべき姿「誰もが安心して暮らし、働き、子どもを育てることができるまちに！」を達成するために、「やっぱり香南市がえい！」と思えるまちづくりの推進、こどもまんなか香南市の実現、魅力ある産業の活性化と新たなチャレンジへの支援を推進 の 3 つの基本目標を据えています。

この各基本目標の達成のために、例えば、「やっぱり香南市がえい！」の取り組みでは、黄色のラインで示している 5 つの具体的な施策を進めていくこととしています。

次に 6 ページをご覧ください。

こちらには、「やっぱり香南市がえい！と思えるまちづくりの推進」の取り組みをまとめたページとなっています。

まず、この基本目標を達成するための数値目標が、左上に 2 つあります。

その達成に向けた具体的な施策として、先ほどお伝えした 5 つの黄色いラインの項目があり、各々の KPI 目標値を示しています。

本日は、これら、各項目の数値目標とその達成に向けた具体的な施策に加え、施策の達成に向けた本市の事業の進捗状況について抜粋して、共有させていただき、ご意見等を後ほどいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

なお、30 ページ以降の、「魅力ある産業の活性化と新たなチャレンジへの支援を推進」の進捗管理につきましては、未来戦略と連携いたします香南市産業振興計画で、その進捗の確認と今後の方向性を議論されていますことから、本日は割愛をさせていただきますのでご了承ください。

ただし、ご質問等があれば、後ほどの意見交換のお時間にお願ひできればと思います。

それでは、資料 1 の 1 ページから 3 ページをご覧ください。

こちらは、各基本目標の数値目標と具体的な施策についての一覧表となっています。

各指数の名称が左手に記載されており、R5 年度末の実績を基準として、R7 年度以降の目標値を上段に、10 月末現在の実績を下段に記載しています。

各事業ともに、実施される時期が違うこと等から、目標値と大きく乖離している数値もありますが、まずは、10 月末現在の数字であることをご理解いただければと思います。

次に、4 ページをご覧ください。

ここからは、先ほどご確認いただきました、一覧表に掲載されている事業の個々の取り組み内容や現状、今後の見通し等が掲載されています。

今回は、各基本目標の数値目標の現状と、目標値から乖離している C 評価の事業について共有をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、4 ページからお願いします。

こちらには、「やっぱり香南市がえい！と思えるまちづくりの推進」の数値目標になる「社会増減数」の進捗を記載しています。

R7 年度の数値目標は、社会増の人数を 115 人と設定しており、12 月末の実績は 69 人の増となっています。

下の青く塗られている 2 段目の「D これまでの取り組み」とある欄に記載しておりますが、本年

度 4 月から 12 月までの転入者数は 814 人、転出者数は 745 人となっています。

また、出生数と死亡者数の増減である自然増減数はマイナス 191 人となっており、本市の人口推移は 12 月末現在で、マイナス 122 人となっています。

この目標値の最終実績値は、3 月末の数字になってきますが、転入出はこれから 3 月にかけて多くなってくることから、目標値の達成については不透明な状況ですが、この目標値の達成のために今年度取り組んできた内容としては、主に、これは将来の転出者の抑制に繋げる取り組みになります。今年度は、10 月 1 日に、県立山田高校の本市出身の 1 年生の授業で、また、11 月 7 日には、野市中学校 1 年生を対象とした授業にお邪魔をさせていただき、本市の人口減少等の現状とそこでどういった取り組みをしているかや、将来香南市が香南市でありつづけるためには、若者の力が必要である旨を伝える取り組みを行いました。

また、後ほどご説明もさせていただきますが、本市の 34 歳以下の職員に協力をいただいたアンケート調査や生涯学習課さんと連携した、成人式の対象者に向けたアンケート調査等も行い、本戦略で強化すべきポイント等の確認を改めて行ったところです。

現状、少子高齢化の影響により、自然減は避けられないという状況から、未来戦略では、「人口減少は避けられない」としてありますが、その中でも、いかに出生数を上げていくか、移住施策等で転入者を増やしていくか、又は、様々な取り組みで転出者を減らしていくか、維持に努めていくかが、本市の人口増加・維持のキーになることは、これまでも当委員会で意見交換をさせていただいてきました。

この改善に向けた取り組みにつきましては、のちほど、資料 4 の次年度の新規事業(案)でご紹介をさせていただきたいと思います。

次に 5 ページのもう 1 つの数値目標「県外からの移住者数」をご確認ください。

本市の今年度の移住者数の目標人数は 204 人としています。

この移住者数は、県が設定する、転勤や進学等で本市に越してきた方以外で、転入アンケートにご回答いただいた方の人数となり、10 月末現在の移住者は 87 人で「C」評価となっています。前年同時期と比較しますと、前年度も 87 人と同人数となっており、記載はないですが、12 月末時点では 103 人となっています。

3 月には多くの方の転入出がありますことから、最終的には目標値に近づいてくるのではないかと考えています。

今年度の取り組みといたしましては、D の部分に記載していますとおり、本市へ移住されてきた方が今後も安心して暮らせるように、横のつながりを産む事業である「移住者交流会の開催や首都圏・関西圏へ出向き移住を検討している方にアプローチをする各移住フェアへの参加等を行っています。

また、今年度からは、県の人口減少対策総合交付金を活用した、本市のみの移住イベント「ちょいなかこうなん県外移住イベント」を 11 月 8 日に大阪梅田にあります KITTE 大阪で開催し、予定組数 30 組を上回る 37 組 67 人の参加をいただきました。

今後は、この方々とのつながりを継続しつつ、本市への移住を前向きに検討していただけるようにアプローチを続けていく予定です。

次に、6 ページをご覧ください。

「市移住 HP アクセス数」につきましては、目標値 113,000 件に対し、10 月末現在で 54,155 件となっています。

この数字は、前年同月と比較いたしますと、8,647 件の増となっており、先ほどご説明いたしました大阪での移住イベントの告知や本市 HP 内に、U ターン検討者向けの情報をまとめたページを作成したこと等から数字を伸ばしてるものと考えられます。

なお、参考として、大阪イベントの告知で活用したデジタルマーケティングの数字としては、Google 広告クリック数は 11,235 件、Instagram 広告クリック数は 975 件となっています。

なお、12 月末現在の数字は、67,373 件となっており、目標値の達成は少し困難な状況ですが、引き続き、各課との連携を密に行い、移住検討者へのスムーズな情報提供に繋げていきま

す。

続けて、下段の「お試し滞在住宅の稼働率」をご確認ください。

当事業の目標値は、以前より稼働していた香我美町のお試し滞在住宅と、R7 年度より稼働を始めた夜須町のお試し滞在住宅の 2 棟の稼働率を目標値としており、R7 年度の目標値は 86%としておりますが、10 月末現在の稼働率は 37%となっています。

D の取り組み内容に記載しておりますが個別で見ますと、香我美町の物件の稼働率は 50%、夜須町の物件の稼働率は 24%となっています。

2 棟ともに、借りたい方が重複する時期があり、7 月に 1 組お断りをしたこと等も影響しています。

なお、重複に関しては、12 月～1 月にかけて 3 組の重複があり、利用を検討されている方の重複の改善が課題となっています。

今後の見通しですが、今年度は、香我美町西川で、予約検討の問い合わせが 1 件。夜須町では、現在利用中の方が 2 月中旬まで利用を予定されており、稼働率といたしましては、もう少し向上することが見込まれています。

また、今年度は、野市町で、新たに 1 棟のお試し滞在住宅整備を進めており、来年度から稼働を予定しています。

先ほど、利用者が重複しお断りをしたケースがあったとお伝えいたしましたが、その解消にも繋がられるよう、引き続き準備を進めてまいります。

次に、8 ページをご確認ください。

こちらは、「空き家バンクの新規登録数」になります。

こちらの目標値は、毎年 14 軒の新規登録としておりますが、10 月末までの登録数は、4 件となっています。

しかしながら、現在 10 件の相談等がありますことから、引き続き、物件の所有者と登録に向けた手続きを進めて参りたいと思います。

次に 10 ページをご確認ください。

ここからは、本市の地域コミュニティの強化に向けた取り組みを記載しています。

10 ページには、「本市の自治会の結成率」が記載されています。

C 評価ではありませんが少し共有をさせていただきます。

現在、市の自治会については、野市町以外は全てできている状況です。

野市町は、新しい団地が次々にできている現状があることは、皆さまもご承知とは思いますが、既存の地域でもまだ自治会ができていない地域があることも事実です。

こちらは、地域支援課が中心となり結成に向けた取り組みを進めているところですが、様々な年代の方がいる地域もありますし、自治会の必要性についてご理解いただく部分で時間を要していること等から、本年度 4 月以降に新たに結成された自治会は 1 つとなっています。

ただし、現在、1 つの自治会の設立に向けて取り組んでおり、引き続き根気強く取り組みを進めていくこととしています。

なお、11 ページ以降は、既存の自治会やコミュニティの維持に向けた各事業の取り組み内容を掲載しておりますので、ご確認ください。

次に 15 ページをお願いします。

ここからは、「防災に強いまちづくりに関する事業」になります。

本市の防災対策課が中心となり様々な取り組みを行っており、一定、事業の成果は得ておりますが、例えば、自主防災組織の結成率では、自治会同様、新たな団地等でその必要性の理解をいただき、また、市に依存するのではなく、その地域のみなさんが協力して取り組んでいくことが必要となっていく事業になることから、引き続き、地域ごとのリーダー育成も含めた取り組みを進め、組織化に結び付けていく予定です。

次に 16 ページをご確認ください。

こちらには、「香南市事前復興まちづくり計画の策定」に向けた内容を掲載していますが、赤字でいろいろと記載をさせていただいております。

このことについて少し説明をさせていただきます。

香南市未来戦略の策定時、この計画は、旧町ごとに、5つの計画を策定する予定でしたが、R7年度に実施した市民向けのアンケートや市役所内のプロジェクトチーム会の協議等により、当初の、「旧町ごとに計画を作る」のではなく、市として1つの計画を早期にまとめ、それを以て、ワークショップ等を行い、有事後の事前復興を進めるという方向性にシフトされたと伺っております。

このことから、R8年度、9年度のKPI、目標の標記の仕方、(P)当初プランを記載のあるように改めたいと考えています。

また、このことに紐づき、本資料の1ページのKPIも同様に変更したいと考えています。

このことについては、本日の議事4でお諮りさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に19ページをご確認ください。

ここからは、地域と連携した子育ての推進に関する取り組みとなります。

このうち、上段の「三世代交流事業参加者数」について共有します。

こちらの目標値は、1,200人となっておりますが、11月末現在の参加者数は40人となっております。

11月末までに行われた事業は、D取り組み内容に記載のとおり、パークゴルフ大会と、土佐凧づくり教室が2回となっており、この参加者数が40人となっております。

なお、記載のある、12月の教室の参加者は、今回の数字に含めていません。

D欄にありますとおり、1月11日の凧揚げ大会や2月のモルック大会に、多くの参加者が見込まれており、とりわけ、1月の凧揚げ大会では、のべ1,000人以上の参加があったことから、今年度の目標値には近づく見込みとなっております。

続いて、21ページをご確認ください。

ここからは、基本目標である、こどもまんなか香南市の実現に向けた取り組みとなります。

まず、数値目標である、出生数について共有いたします。

こちらの目標値は、R7年1月から12月までの数字が目標値となっております。

本市の出生数は、R5年に合併後初めて200人を下回ったことから、香南市未来戦略では、出生数を少しずつではありますが、回復させていくように目標値を設定しています。

R7年の目標値は191人としておりましたが、12月末までの結果は、195人となっております。

目標値より4人多い結果となりましたが、依然として200人を下回る結果となりました。

本市では、健康対策課の地区担当保健師が、妊婦さん全員に伴走し、出産後までサポートを行っています。

また、R7年4月には、本市において民間事業者による産後ケアサービス等の提供やお産の取り扱いも始まり、12月には、めでたく助産院での出産事例があったとの新聞報道がされておりました。

引き続き、母子ともに健やかに過ごせる環境づくり等を確立し、望むタイミングで安心して出産できるように様々な事業、支援に取り組んでいきます。

次に22ページをご確認ください。

こちらは、出産後の子育てに関する部分の事業実績になります。

まず、22ページの「総合子育て支援センターにこなん」の利用者数ですが、こちらは、のべ13,000人の目標値に対し、10月末までに8,336人が利用をされています。

なお、12月末現在の利用者は延べ10,866人、前年比1,019人増で順調に推移しており、目標の13,000人を上回る見込みです。

皆さまとの議論から、それまで月2回の土曜日開設を、今年度より毎週開設としたこと等から、利用者数はおおむね良好となっております。

次に23ページの「放課後児童クラブの利用者数」につきましますが、こちらは、R7年4月1日の利用者数を記載しておりますが、目標値450人に対し、利用者は458人となっていま

す。

当事業は、昨年度、皆さまからご意見をいただき、今年度からは、公営児童クラブにおいて学校のある日の平日に 18:30 までの延長保育を開始しております。

利用者からは、「慌てて迎えに行く必要がなくなり良くなった」といったようなご意見をいただいています。

一方で、当事業の募集人数を上回る入会決定をしましたが、待機児童が発生したことや、特別な支援を要する児童への対応から人員の確保を要するケースも生じています。

また、保護者が運営している、夜須はーと児童くらぶについては、支援員の確保が困難であること、保護者会役員の責任や担い手の確保が困難等の理由から、R8 年度から公営の児童クラブへ移行を予定しています。

次に、少し飛びまして、29 ページをご確認ください。

このページは、出会いに関する事業について記載がありますが、上段の「こうち出会いサポートシステム入会登録料補助金活用者人数」について説明いたします。

R7 年度の目標値は 50 人としておりますが、10 月までの実績は 0 名となっています。

記載はありませんが、11 月に 1 名、12 月末までにもう 1 名申請があり、現状は 2 件となっておりますが、目標値からは大きくかけ離れています。

本補助金の対象者は、「39 歳以下で、今年度、県のこうち出会いサポートセンターに登録された方」であることが求められますが、その人数が 10 名程度となってることや、4 月の運用開始後、市役所や県のこうち出会いサポートセンター、子育て支援課にご協力いただく形でのチラシの配布や SNS による周知を行ってきましたが、補助金の申請を行う際に、知り合いにあってしまう可能性等から、市の窓口に行くこと自体に抵抗があるという事が、伸び悩んでいる要因と考えています。

このことから、来年度は、補助金が活用出来る対象者の拡充に向けた加入促進のための周知強化や、補助金申請時に電子申請もできるように検討したいと考えています。

以上、長くなりましたが、説明を終わります。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

C 評価になってるところを詳しくご説明してくださいということをお願いしたんですけれども、その部分でもいいですし、それ以外に、分かりませんという部分でも構いませんので、委員の皆さま、いかがでしょうか。

各事業で、事業内容が行われていないではないかとか、10 月末ということで数字自体はまだ、5 か月残したところでの数字ですので、C 評価で厳しい評価等もあるんですけど、ちょっとやり方とかがおかしい、または課題等でも構いません。いかがでしょうか。

(石丸委員)

14 ページの地域のコミュニティの強化ということで、僕の住んでるところはちょうど高速の南側ということで農業振興地域になる。

従来、住みなれた方が多く、年齢の高い方がかなりおります。

そういった中で、コミュニティの強化というのは、やっぱり昔ながらの住民で、また高齢化が進んできているということではなかなか、まちづくり協議会を立ちあげても集まりが悪い現状がある。

そういった中、香南市の人口が増えている地域もあるが、やはり新しい人の集まりと新しい地域での、やっぱり若いものの活動する場をつくっていかないとなかなか発展は難しいかなというふうに思っております。

そういった意味で、新しい団地の方々の結束力の強化ということで、何かその地域で、頑張っている団地なんかがあれば、どのような活動をしているのかを教えてもらいたい。

それから、新しい方と従来の年配のいる地域とで分けて活動しているまちづくり協議会もある

みたいなので、やはり若い者がこれから活動していった香南市を盛り上げていてもらいたいと思いますので、そういう新しいところの取組か何かがあれば、お願いします。

(地域支援課 小川課長)

地域ごとにいろんな活動をしているんじゃないかと、また、若い方にできるだけ活動に参加いただけるような事例はないかということですが、野市町の場合、先ほど事務局のほうからも説明がありましたように、人口が比較的増加している地域ということで、新興住宅地が増加しており、自治会の基礎となる町内会自体が出来てないという地域が多くございます。

新たな新興住宅地に転入してくる方というのは若い世代の方が多くて、この既存の町内会活動にあまり興味がないという方が多いというのが現状でございます。

そういった方にも、やっぱり町内会の必要性を知っていただくということで、昨年度から、地域支援課に集落支援員を配置しまして、新興住宅地やそういった団地のほうを回って、町内会、自治会の重要性や仕組みについて説明をさせていただいております。本年度は町内会が2組織、新規設立をしております。

また自治会のほうも1組織の設立がございました。

そういった地道な活動を続けているところなんですけど、既存の組織の活動につきましては、やはり委員のおっしゃるように、若い世代の方に参加していただきたいと思っております。

そうすることによって、地域が活性化するというのも思っております。よくやられているのが3世代交流事業、例えば、餅つき大会であるとか、子どもの方、ファミリーの方が集まるようなイベントをやっている地域がございます。

こちらの14ページのほうにも書かせていただいておりますが、現在、町内会のほうで回覧版を回していただいておりますが、主に紙ベースで回していただいているような現状です。そこでできるだけ、自治会や協議会の役員の方の負担軽減を図るという意味も込めまして、デジタルアプリの導入というのを、今、まさに今月2月から来年の1月までの1年間、まずは実証実験という事で、スタートをしております。やってみないと手を挙げていただいた、協議会、自治会が野市町の3組織ございますが、そちらのほうで、デジタルアプリの導入の試験運用というのを始めております。

協議会等の役員をされているのは、高齢の方が多いんですが、そういうデジタルアプリを導入することによって、比較的若い世代の方にも町内会や自治会、協議会の活動に興味を持っていただいて、そして参加していただけるんじゃないかと思っております。そのような取組も始めているところです。

(石丸委員)

コミュニティと強化ということで、いいと思います。

それとまた子育て支援ということで、やはり香南市の人口が増え過ぎて、各小学校、東小学校、佐古小学校も含めてですね、非常に子どもの数が、出生数が少ない割に増えてきているということで、野市の住民の方が、市の保育園に入れなくて、なかなか入れない状況になっているようですので、このような対策もやっぱりとっていかんと。

香南市はいいよと言ってもなかなか、表向きはよくあっても、実際来てみたら、受入れ体制等が、あまりよくないのかなというふうにも感じられる部分もあります。

今非常に香南市も宅地化が進んでおりますし、私が農業委員もしてますけれども、人口が増えているわけですけど、結局受入れ体制が出来てないことで、問題が生じていて、水路が狭いとか、あそこへ来て、水道管が細くて、今のこの人口に耐えられなくなってきてるんですよ。

そういった意味で、やはり受入れ体制のほうもかなり検討していかなくちゃいかんかなというふうにも思っております。

以上です。

(石筒委員長)

はい、ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。

私のほうから 1 点よろしいでしょうか。

最初にありました社会増減の目標の部分と県外の移住ということで、数値を見ると、割と県外からの移住者数の増加がそのまま社会増減とか社会増に影響するように見えている。

大きな市になると、この比率が少ないんですけど、香南市の場合はかなり県外からの移住自体が、社会増減に影響するようにお見受けする。

割合としてはちょっと大きくなるんですけども、これまで 10 月時点でかなり積極的に移住者に向けた取組されてるんですけども、実際のところ、反応はいかがでしょう。

今回の数字になっているところは、この取組の前、恐らく去年あたりの参加者や、一昨年参加者の影響だと思うのですが、今年度の取組を通じて、今後、移住者がどれくらい、見込みは難しいかもしれませんが、来年度の数値にもちょっと関係するかなと思いましたので、現状を、直近で言えば 1 月 17 日のフェアまで終わっていると思いますので、どのような感触なのかというのをお願いいたします。

(地域支援課 小川課長)

県外からの移住者数ですが、事務局のほうから説明もありましたように、今現在の数字としましては、昨年度と同様のペースです。

今年度も、説明がありましたように、初めて香南市単独での、大阪での県外移住イベント等も開催をいたしました。香南市を知っていただくという部分ではいい機会になりましたが、それが即、今年度の移住者につながるのかという、なかなかそこは難しいところもございまして、そういった参加者の方には、引き続きメール等でイベントのご案内等はさせていただいているところです。

お試し滞在住宅も、今年度は、夜須町にも設置しましたし、来年度には野市町のほうにも増設を予定しておりまして、県外イベント等で香南市を知っていただき、興味を持っていただいて、お試し滞在住宅のほうもご利用いただいて、そこから移住に繋がりたいというふうな思いがございしますが、そのお試し滞在住宅のほうも、やはり利用希望時期の重複というのもありまして、こちらの思うような利用率になっていないというふうな状況ではございます。

ただ、来年度も、この県外の単独イベントというのも行っていきますし、引き続きそこは、積極的な情報発信も含めて、1 人でも多くの移住者を獲得できるように、取組を続けていきたいとは思っております。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

ちなみに、お答えできる範囲で、子育ての世代の移住者、若しくは、移住希望者の世代と実際の子育て世代がどれくらいいたのかはわかりますか。

その中で、例えば、34 歳以下ってありましたけども、20 代 30 代の移住者もしくは移住希望者というのはどれくらいの割合なのか。

お分かりなら、お教えてください。

(地域支援課 小川課長)

全体的な移住希望者の年齢別の割合というのは把握しておりませんが、この大阪でのちょいなかこうなん県外交流イベントの参加者でいいますと、参加者が 37 組 65 人あったんですが、そのうち 34 歳以下の若い世代の参加というのは 7 組でございました。

県の取組に合わせて、若い世代の方に周知して、移住者を増やすというふうな目的でございましたが、基本的に年配の方が今回の参加では多かったというふうな印象です。

当日は、ワークショップも開催しまして、ワークショップの参加対象者はファミリー向けというふ

うなイベントに設定はさせていただいておりましたが、実際参加された方は、私たちが考えているような小・中学生とその保護者ではなくて、50代の方とそこそこの両親の参加というのも多かったような状況でございました。

なお、参考までに申し上げますと、今年度の12月末現在になりますが、既に移住された方の年齢別の割合で言いますと、1番多いのが20代の方で42%です。

次に多いのが30代の方、これが18%。次に多いのが50代の方で17%というふうな結果です。ですので比較的、若い世代の方に移住をいただいているというような状況でございます。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

その他、いかがでしょうか。

(小笠原委員)

今ご説明のあった若い方の移住ですが、その方々は香南市に仕事を見つけて、香南市で働いているんでしょうか。

あと、この数字の中には一旦高知市とかほかの高知県内のまち等から香南市に来たってというような2段階移住の方も入ってますでしょうか。

(地域支援課 小川課長)

移住された方が市内で働いているかどうかについては、転入時にアンケートにお答えいただいているんですが、職場の場所までは伺っていないことからわかっておりません。

2段階移住についてですが、香南市では、まず一旦、比較的なじみやすい高知市のほうに移住して、高知市から香南市へ移住された方に対しては、2段階移住の補助金ということがございまして、高知市から香南市へ引っ越す際の費用の一部を、3万円でございますが補助する制度がございます。

今年度その補助金を活用されたのが、1組、昨年度が2組ということで、あまり多くはないですが、2段階移住の方もございます。

ただ、先ほど移住者の年齢の割合を申し上げた数字というのは県外からの移住者数ですので、そちらのほうには含まれてございません。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

その他、いかがでしょうか。

(江口委員)

素朴な疑問ですいません。

最初の社会増減っていうのと、県外からの移住者の数がありますけど、この中に、外国人の数っていうのは含まれているんでしょうか。

さっきの市長のお話じゃないですけど、社会増減でいうと香南市は健闘されてるところですが、やはり、外国人の方、技能実習生が多いんで、帰られて新しい方が来ると0なんだと思うんですけど、さらにそれを超えてどんどん入ってきてる状況もあったりするんですけど、この中にその数が含まれてるのか。

また、さっきの移住者の20代が多いという部分に外国人が入ってるのかどうか。

そこら辺も分析をしていただいたほうがいいかと思います。

(事務局 小林係長)

社会増の数字に関しましては、外国人も日本人も含まれております。

ただ、技能実習生の数字等の分析等というところまでは出来ておりません。

(地域支援課 小川課長)

県外からの移住者数ですが、12 月末現在の数字は、83 組 103 人の移住がありますが、この 103 人という数字の中には国外からの方は含まれておりません。

ただ R6 年度に県外からの移住者が 156 組 185 人ありまして、そのうち、5 組 6 人については国外からの移住者という実績がございます。

これは短期間の滞在じゃなくて、こちらに長期滞在するという意思があった方のみを、移住者としてカウントさせていただいているものです。

(石筒委員長)

それで言うと普通の技能実習生や移住者は含めていない。

今のお話だと、期間移住者ではないんですけど社会増減にはデータとしては入ってくるということですね。

分かりました。

恐らく今後、今、来年度、再来年度というよりも少し長期的な観点で見ると、そういったことに向けたいろいろな取組も必要になってくると思いますので、また、改めて、来年度以降の検討をお願いします。

その他、いかがでしょうか。

(古川委員)

子育てに関するところで、本市のほうでいろいろとイベントをされてるかと思うんですけども、拝見する限り、主に今香南市内に住まれてるお子さんが参加されるのがメインとしていろいろされてると思うんですが、移住者を増やすという上では、例えば、お正月ですとかお盆の時期に、一時帰省といいますか、もともとは香南市に住んでた方たちが子どもを連れて帰ってきてるタイミングってあると思うんですけども、何かそういうときに、そのお子さんたちも一緒に参加できるような、市内の子どもたちも一緒にできるようなイベントがあれば、香南市のことも、知っていただけるタイミングになるのかなと思うんですけども、何かそういったターゲットでイベントを考えてたりとかっていうのがあるんですか。

それから 1 月 11 日に開催予定って書かれたりするんですけど、お正月の時期とかにしたら、もっと市外の人に参加してくれて、香南市を知って、結構いいなと思ってくれるきっかけになったりするんじゃないかなと思い質問をさせていただきました。

(地域支援課 小川課長)

確かに一時帰省をされた方に香南市を知っていただくイベントというのを開催して参加いただいて、将来的な U ターンに繋げるということも大切かと思いますが、今のところそういったイベントというのは開催しておりません。

ただ、委員がおっしゃるように、その時期に何か市内で開催しているイベントがあって、それをホームページに掲載するとか、そういった情報発信からまずは始めたいと思っております。

ありがとうございます。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

この後のアンケートでも、若い人たちが県外へ出た後、どうやって戻ってくるのかってところが項目のところにもあって、U ターンというのが恐らく今後の移住者の獲得や社会増減に影響を及ぼすこともあるかなと思いますのでまた後で触れていただければと思います。

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、一旦休憩といたします。

～ 休憩 ～

(石筒委員長)

それでは再開したいと思います。

続きまして議事の 2 と 3 を、これは続いていますので、アンケート調査の結果についてご説明していただいた後、それに関連した形で、来年度の取組についても、説明していただいて、意見をまたいただきたいと思います。

それでは事務局からお願いします。

(事務局 小林係長)

それでは、まず、R7 年度に実施したアンケート調査について説明いたします。

資料は、資料 2-1、2-2 と資料 3 でご説明いたします。

まず、各アンケートについてですが、未来戦略の策定に向けて、皆さまと協議を進めてきた中で、香南市で生まれ、育った方々が、将来、香南市に住むという選択肢をどう持つのか、大学進学等で県外に出てしまう傾向はありますが、そのあとに、「やっぱり香南市」という、将来の選択肢として、その考えを持ち続けてもらえるために、「新成人や学生といった、いわゆる若者の世代に対するアプローチが必要ではないか」とのご意見もいただいていたことから、これまで、アプローチできていなかった若者たちの香南市に対して感じていることや意見等を得るため、実施したものになります。

アンケート調査については、今年度は 2 種類を実施いたしました。

1 つ目は、資料 2-1、2-2 の、本市の 34 歳以下の職員全員を対象としたものになります。基本的に、本市の職員でありますことから、「しごと」という部分ではなく、香南市で暮らす中で感じている事等について伺ったアンケート内容となっております。

全ての項目の確認は時間の関係上難しいことから、アンケートの結果について抜粋して共有させていただきます。

まず、表紙にありますとおり、回答状況としては、266 人に対し、122 人の回答をいただいております。

次に、問 1 から問 19 においては、本市出身者か、また、過去に本市以外で生活をした経験があるか、現在香南市で暮らしているか、暮らしていないのはなぜか等を伺っています。

詳細はご確認いただきたいと思いますと思いますが、例えば、問 1 にありますとおり、本市生まれの方は 41%、50 人で、問 7 で、本市生まれの方に、香南市以外での生活経験を伺ったところ、54%、27 人が、本市から出ずに、本市で暮らし、市役所に勤めていることがわかりました。

また、問 11 では、現在香南市で暮らしているか否かを伺っており、55% 67 の方が、香南市で暮らしているということで、逆に、半分の方は香南市で暮らしていないことがわかりました。

次に、問 20 以降では、本市の満足度や良いところや不満に思っている部分等について伺っています。

問 20 では、現在、香南市で暮らしている方に本市の満足度を確認し、おおむね、満足をいただいております。

その理由としては、問 21 にあるとおり、アクセス面や豊かな自然といったところが意見として上がっていますが、一方、問 23 で、本市で生活するうえで改善が必要なところを伺うと、赤のアンダーラインで引かれた項目に意見が集中していることがわかりました。

また、問 27 で、今後特に力を入れるべき分野を伺ったところ、「まちづくり」「住居関係」「子育て」の分野が大きく、回答者が、職員という立場ではありますが、昨年度みなさまと議論し、いただいたご意見等と似た結果となりました。

なお、問 29 から 31 で、若者の増加や出会い・結婚・妊娠・出産しやすいまちになるために必要な事業や市民として求めるモノや疑問点等について伺っております。

この部分については、別紙 2-2 にまとめておりますが、ボリュームがあることから割愛をいたしますが、例えば、U ターンを含めた移住施策を進めるにあたっては、「しごと」があるかどうか

非常に重要ではないかという意見や子育てに対する支援策の拡充を求める意見が多くみられました。

次に、資料 3 の成人式対象者へのアンケート結果について共有いたします。

本日お配りいたしました当日資料 1 も併せてご覧ください。

まず、資料 3 の表紙にありますとおり、回答者数についてですが、対象者が 337 人に対し、回答者は 35 人で、約 10%となっています。

本市では、R2 年度から R6 年度まで、小 6、中 3、18 歳を対象に、「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」を実施してきましたが、その際の 18 歳の回答数も約 20%と低かったことを鑑みますと、中学校を卒業した後の各年代に、いかに「本市のこと」に振り向いてもらえるかが課題であると改めて感じたところです。

そのうえで、アンケート結果を見ますと、まず、問 1 ですが、現状香南市に住んでいる方が今年度は多く、そのうち 7 割以上の方が香南市生まれであるということがわかりました。

しかし、問 6 において、「今後も住み続けたいか」と伺ったところ、「わからない」を含めた約 3 割の方が、仕事や賃金を理由に市外に出ると答えています。

この部分について、本日お配りした当日資料 1 をご覧ください。

この資料は、R2 年度から R6 年度までの第 2 期総合戦略期間に小学 6 年生、中学 3 年生、18 歳の方を対象として行ったアンケートの結果との比較になります。

今回の新成人アンケートに答えてくれた方が、18 歳の時(R5 年度)、中学 3 年生の時(R2 年度)に回答してくれた結果と比較したものと読み取りください。

今回のアンケートの問 6「今後も住み続けたいか」という設問に関しましては、先ほどお伝えしたように、わからないを含めて約 3 割の方が、仕事や賃金を理由に市外に出ると答えています。この方々は、中 3、18 歳の時にどうだったかを確認したところ、市外に出たいとする回答は、わからないを含めて約 3 割と、その傾向は大きく変わっていないことがわかりました。

また、資料 3 の問 7 に、住み続けたくない理由が記載されていますが、この部分についても、先ほどと同様比較いたしますと、当日資料の 1 ページ右側になりますが、新成人のアンケートの中身は「仕事」という理由が大きかったですが、18 歳までのアンケート結果では、成長過程に沿った理由での回答となっており、一概には言えませんが、例えば、18 歳の理由に、「専門学校が県内にない」というようなことであれば、そこを卒業した後に、受け入れ先が県内にあれば帰ってくる可能性もあると捉えることができるので、その部分をどう捉えて取り組んでいくかがキーになると整理をしたところです。

次に、資料 3 の問 10 と、当日資料の 2 ページをご覧ください。

ここでは、本市職員向けのアンケートと同様に、本市への満足度や改善が必要な点を伺っております。

香南市の暮らしに関しては、問 10 にありますとおり、「不満はない」と回答をいただいております。過去のアンケート結果を見ましても、年々「本市で暮らすことの満足度」は高まってきています。

一方で、問 13 では、改善が必要と感じている点を伺っています。

過去のアンケートと設問の内容が少し違うため、一概に言えない部分もありますが、変わらない部分として、ごめん・なはり線や本市の市営バス等を含めた公共交通の、便数や金額等への意見の多さが目立つ傾向となっています。

また、防犯灯や地震の対応等を含めた、治安の良さに関する意見は、年齢を負うごとに、少なくなってきました。

ただし、防災の観点に関して、安心なまちになってきているから減ってきているということであれば、良い傾向と受け取れますが、その部分が明確に追えていないことから、今後の課題とするとともに、防災対策課にも情報を共有し、協力を仰いでいきたい考えです。

次に、資料 3 の問 15 と当日資料 1 の 3 ページをご覧ください。

ここでは、「将来香南市で働きたいか」という設問になっています。

資料 3 の単年の結果で見ますと、「働きたい」、「働きたくない」、「わからない」とする方の数はほぼ同数となっています。

今後、就職を考えていく 20 歳の「わからない」としている層に、本市、又は本県の「しごと」をいかに PR していくかが、今後の伸びしろになるのではないかと感じたところです。

一方で、過去のアンケートで、この動きを確認いたしますと、中学 3 年生では、「わからない」が多く、年齢を重ねるとともに、「香南市で働きたい」、「香南市外で働きたい」が、大体同じ割合で伸びていきます。

本市では、商工観光課が中心となって、市内に立地されている企業様を小学生に知ってもらうツアーを毎年 8 月頃に開催する等の取り組みを行っておりますが、定点のアンケート結果を見することで、本市の産業の振興に向けては、『いかに若いうちから、本市の魅力ある産業を知っていただくか』が、大切であると改めて感じたところでした。

最後に、資料 3 の問 19 と当日資料 1 の 4 ページをお願いします。

ここには、どのような施策があれば、本市に住み続けたい、戻ってきたいかという設問となっています。

資料 3 の新成人の意見を確認いたしますと、やはり多くは、戻ってくるためには、子育て環境や金銭面を含めた仕事に関すること、また、その支援の要望が多くなっています。

過去のアンケートでは、この部分に関する意見というのは非常に少なかった部分ですが、社会や学生生活において、様々な点をより、リアルに見て、意見を出してきてくれていると感じたところです。

以上、少し長くなりましたが、アンケート結果の共有となります。

次に、議事 3 の R8 年度の取り組み(案)について説明いたします。

資料 4 をご確認ください。

こちらは、先ほどのアンケート結果等も含め、検討した、R8 年度に取り組もうとしている事業(案)になります。

なお、皆さま、ご承知のとおり、次年度の予算は本年 3 月に開会されます議会で承認をされてからの実施となりますことから、現状は(案)ということでご理解をお願いします。

それでは、説明いたします。

まず、表は色分けがされていますが、これは、香南市未来戦略の基本目標の色を示しています。それでは、抜粋して紹介します。

まず、1 つ目、「まちづくり & 移住」 やっぱり香南市がえい！香南市魅力発掘プロジェクト！ということで、新たな取り組みを行いたいと考えています。

香南市未来戦略では、県外・市外から移住者を増やしていく施策等にも引き続き取り組みつつ、転出者を増やさないための取り組みや、一度外に出てしまっても戻ってきってもらうための取り組みの強化が必要とのご意見をいただきました。

また、先ほどのアンケート結果から見えたこととして、産業の分野にありました、「いかに小さいころから、本市のことを知っていただくか」という部分の必要性があることがわかりました。

これらのことから、次年度からは、これまでの取り組みも行いつつ、香南市で暮らすことの素晴らしさを小さいころから育てていくというキャリア教育や、改めて香南市を好きになってもらうこと等、香南市民が香南市で暮らすことに誇りが持てるような取り組みに力を入れ、シビックプライドを高めていく方向性の整理をしてきたと思います。

内容としては、既にある、本市の各地域の魅力あるヒト・モノ・コト等を体験できるプログラムをさらに可視化し、市民はもちろん、移住検討者等が、いつでも本市の魅力あるプログラムが体験できるスキームを整えていく事業になります。

例えばですが、本市は 3 月 1 日に合併 20 年となりますが、まだまだ旧町村の見えない壁という部分があるというのは、皆さんもご承知のとおりだと思いますし、それが悪いというわけではありませんが、それでも、例えば、吉川町の方が夜須町の手結の盆踊りを知ってはいるが、踊ったことがある方は少ないでしょうし、例えば、海に面している方でも釣りをしたことがない方やタケノコを掘ったことがない方もいると思います。

そういった、旧町村等の垣根を超えた形で市民が体験できる・体験してもらう場を通じて、香南

市で暮らす各世代の方が香南市をさらに知ってもらうことで、「香南市に対する愛着の強化」を図るとともに、その地域等がやりがいを持って地域活動等で取り組んでいける等の「まちづくり」にも繋がりたいと考えています。

加えて、この取り組みは、移住検討者等が、体験することで、香南市を良く知り、さらに検討先としていくことにも繋がるものであると考えています。

色々な角度の考えを含めて進めていくプロジェクトとなりますので、一気に進めることは正直困難なモノになりますが、R8 年度は、「このプログラムを可視化し、展開するために必要な発信方法や運営のスキーム」を、県外で暮らす本市出身の大学生等を軸とした学生世代に考えていただく事業を実施したいと考えています。

なお、当事業が進む中で、将来的に、例えば、各体験を繋げたツアーを組み、移住体験ツアーを実施する場合は、おそらく、旅行業の関係もあると思うので、そういった場合は、例えば、DMO さんに事業を担っていただくですとか、体験を受け入れる側として、本日は欠席ですが、機型工業さんにご協力いただくとか、北川委員に、赤岡プロジェクトさんの取り組みを、1 つの体験プログラムとして受け入れていただくとか、高木さんの方で何かお酒の関係でも良いですし、デザイナーとしての体験を受け入れていただくとか、色々なお立場で、既に皆さん自体が本市のヒーローだと思うので、是非ご協力もいただきながら事業を展開出来たらなと考えている事業になります。

次に、その下の空き家バンクへの登録・取得奨励金事業につきましては、住宅政策課長よりご説明をいただきます。

(住宅政策課 浜田課長)

本事業は空き家バンクの登録件数及び取得件数の増加を図り、空き家の活用と移住定住を促進することを目的に、奨励金事業を実施するものでございます。

R5 年度より住宅政策課の事業といたしまして、空き家対策や空き家バンク事業を実施しているところでありますが、空き家の問題解決には、「除却」と「活用」の選択肢がございます。

そのうち、「活用」の意識を高めることとして、空き家バンクが担っているところでございます。現状の課題といたしましては、登録件数の伸び悩みがございます。

空き家バンクに登録することにより、登録、また片づけと、空き家を何とかしようという意識を持ってもらうことや空き家に対する解決策の糸口となるよう、選択肢を増やしていきたいというふうに考えてございます。

具体的な内容は、登録及び取得に対し、奨励金というものを現在予算化、制度化を含めまして要綱の作成等を、随時行っているところでございます。

事業の期間といたしましては 2 か年としまして、経過をしっかりと確認しながら、本未来戦略の中でも検討できればというふうに考えてございます。

また、財源としましては、一部、高知県人口減少対策総合交付金の活用をする計画を立てております。

(事務局 小林係長)

ありがとうございました。

次に、右のピンクの部分の香南市子育て見守り便わくわくバック事業について、健康対策課長よりお願いします。

(健康対策課 伊藤課長)

わくわくバッグ事業についてご説明いたします。

この事業は、健康対策課と農林水産課が共同で行う事業になっております。

本日、当日資料ということで、皆さまのお手元にわくわくバッグ事業のチラシを配布させていただいておりますので、それをご覧になりながらお聞きになっていただければと思います。

本市は、こうち生協と昨年 9 月に包括連携協定を締結いたしました。が、包括連携協定の事業の一環として、子育て世帯を応援するために、香南市在住で、1 歳未満の赤ちゃんがいるご家庭を対象に、わくわくバック事業を提供することになりました。

香南市に生まれてきてくれた赤ちゃんにたくさんのわくわくを届けたい、育児に奮闘しているママやパパにわくわくするプレゼントを届けたいという思いを込めまして、香南市と生協からプレゼントをお届けいたします。

プレゼントの中身は、香南市でつくられた特別栽培米 2 キロと生協さんが選んだ商品の詰め合わせとなっております。

赤ちゃんが生まれたご家庭に、市の保健師は必ず赤ちゃん訪問という形で訪問をさせていただきますので、その機会を利用して、申込みのチラシを配布して、事業の説明を行います。

わくわくバックを希望するご家庭は、チラシのまだ、見本には QR コードが付いておりませんが、QR コードを使って申込みをしまして、生協の職員の方が、自宅までお届けするという流れとなっております。

商品を入れておりますバックは、パンどろぼうで有名な絵本作家の柴田ケイコさんが、デザインしたバックということになっております。

事業は来年度 4 月から行います。

4 月 1 日以降も、赤ちゃんの訪問の中で保健師が説明を始めていきますけれども、生後 1 歳までの赤ちゃんがいる世帯はどなたでも申込みが出来ますので、赤ちゃん訪問で対象になっていなくても、市ホームページ、それから市の母子保健事業の中で、この事業を説明していきたいというふうに思っております。

(事務局 小林係長)

ありがとうございました。

以上で説明を終わりにします。

(石筒委員長)

議事の 2 と 3 に関して一括して説明をしていただきましたけれども、ご質問、ご意見等がありましたらよろしく願いいたします。

アンケートのほうでも、取組のほうでも構いませんけども、いかがでしょうか。

(門田委員)

アンケートが非常に勉強になりまして、やっぱり今、自分の年代で考えることと、それから若い方が考えてることってというのは違う部分等もあり非常に参考になりました。

一方で、説明の中にもあったんですけど、アンケートの結果、調査の数で 10% ぐらいしかなかったことがあったんですが、ちょっとだけ僕の思ったことを言わせていただくと、最初に香南市職員のアンケート、34 歳以下のアンケートがあったと思うんですけども、このアンケートを見たら 45.8% ということで、50% を切ってるという状況で、やっぱりこれから香南市を、このまち・ひと・しごと総合戦略、これは何のためにやってるのかっていう部分で、こうやってみんな時間かけて、担当課長とか、委員の皆さん、市長にも来ていただいて、時間かけてやってる中で、非常に僕は残念やったなと感じています。

どういったことでアンケートをとったかというのは分からないので、そこは置いておいて、やはり、たった 30 問ぐらいのアンケートで、34 歳以下の職員さん、公務員の職員さんが、アンケートの回答率が 40% 台やったっていうのはこれ非常に残念で、本当にやっぱりまち・ひと・しごと総合戦略も含めて、時間かけて、お金をかけて、今後香南市をつくり上げていこうとしてる中で、1 番力をかけて、出していただかないといけないのは、香南市にいろいろ、ここにいるメンバーよりもさらに若い世代の方のメンバーの職員さんがやっていただかないと僕らもやっぱりよくならないというふうに思っておりますので、今後、この戦略も含めて、こういうアンケートのやり方は多分いろいろあると思うので改善とかもしていただいて、本当にこれ、香南市民のため

ということで、100%が僕は当たり前やと思うんですよ。

ぜひそこも含めて、そういうことをしていくと、例えば、学校に出したときに、学校の人たちの意識は変わっていくし、変わらずこういう結果であれば、新成人の方の回答率も10%になるだろうなっていうのは改めて感じたところでありました。

少し残念だったかなと思うんですけども、内容に関しては非常にいいアンケート結果になっていると思うので、今後の戦略に関しては、非常に参考になるかなと思いましたので、意見をさせていただきました。

(別府副委員長)

本当に、今後、香南市の未来という面でいくと、自分の世代というよりは、若い職員が、わがこと、我が身のことにように捉えて、しっかり、100%で回答していただきたかったなというのはあります。

また、当然そこは市の職員もですけど、ぜひ、例えば、商工会の青年部とかでもですね、そういうアンケートをやっていただき、より厚みのあるアンケート結果に繋げていきたいと思いますので引き続きよろしくお願いします。

(古川委員)

空き家対策移住のところで、R8年度に新しい取組のところで、奨励金を出されるということなんですけれども、私もそうなんですけども、実家が今後空いてくるとか、将来、予定としては空くんだけれど、今は空いてないとか、そういう方の相談窓口はあるのでしょうか。

売るとか貸すとかの最終段階の方でなくて、そこに至るまでの相談窓口であったり、実際に手放すってなるときには、司法書士さんだったり行政書士さんが必要になってくるところもあると思うんですけど、そういったところへの仲介とか、何かご相談しやすくなるような取組っていうのは設定される予定でしょうか。

(住宅政策課 浜田課長)

委員がおっしゃるように、実家が様々な状況で、これどうしたらいいんだろうかというような形になられている方は実際多いんじゃないかというふうに理解をしております。

市の担当者のほうへのご相談も、もちろん受け付けております。

ただし、専門的な知見で全てお返しできることが出来ない場合には、県の相談窓口等を紹介させていただいたり、その中から、司法書士さんのほうにつなげていただいたり、また、空き家につきましては相談会ということで、去年も、たしか11月だったと思うんですが、香南市の中で空き家の相談会というものを開催して、不特定多数の方に来ていただいて、様々なご相談を受ける機会を、どちらかといいますと、県の専門家の方に来ていただいて、様々な知見でご回答いただくといったものをやった経過もございますので、不安に思われる方がいらっしゃいましたら、まず市のほうで構いませんので、空き家の相談ということで、ご一報いただければというふうに考えております。

(廣岡委員)

資料4なんですけど、子どもが自立するまで、子育てしやすい香南市にということで、乳幼児期にはいろいろと拡充とか新しいことがいっぱいあって素晴らしいと思うんですけども、就学期、小・中・高の子に対するサポートのほうがちっと少ないなというふうに感じてまして、私は中学生1人と小学生2人の子育てをしてるんですけども、例えば、修学旅行費とか、新しい制服代等、結構な額、20万円前後掛かったりして、隠れ教育費っていうんですかね、それが結構必要となってくるので、家計を圧迫してきている部分がある。

結構きつい状態になってるんですけども、そういった就学期の何かサポートっていうのは今後ないでしょうか。

(学校教育課 小松課長)

経済的に厳しい家庭には、就学援助費という形で、サポートする制度がございますが、全ての世帯にということになりますと、そこまでには至っていないのが現状です。

(廣岡委員)

他の自治体では、中学校の制服が無料になったりとか、県外ではあると思うんですけど、ちょっと何か考えていただけたらと感じている。

給食費の部分ですが、今年 4 月から無料になる理解でよろしいでしょうか。

(学校教育課 小松課長)

給食費のほうは、国からの支援の基準額は、児童一人当たり、月 5,200 円の援助が国から来るということで報道があったと思います。

これは、無償化ではなくて、負担軽減というようなことで、月 5,200 円を超えるような経費が掛かるところにおいては各自治体で考えてくださいというものです。

今後、また考えていくというようなことになると思います。

現在のところ、国から細かいことがおりてきていません。また、衆議院解散による選挙もありまして、今後どうなるかという部分もありますことから、選挙が終わったのちにいろいろと見えてくる予定です。

なお、基本的に、小学校のほうは、R8 年度から、負担軽減ということで、国からのサポートが来るというところですが、中学校のほうはまだなので、基本中学校は給食費をいただく形になっています。

(三木教育長)

委員のおっしゃるとおりと感じる部分もあります。

希望としてはよく分かるんですけども、まず給食費のことについて補足をいたしますと、先日、教育長が集まる県内の会がありまして、国は無償という言葉で言ってるんですが、実際にかかる費用を全部送り出すのではなくて、一定の額をトータル的に、全部同じ額で、1 人当たり幾らという形で払うと、ほぼこの自治体も差が出ます。要するにそれでは足らんという事になります。

その足りない分を市のほうで補填して、完全に無償にするということを考えている市町村は、高知県内にもありました。ただし、圧倒的に子どもの数が少ないまちでした。そこは、それができるところです。

あっさり言うと、大きなところ、本市も割と大きな部類に入るんですけども、この中では、それは無理やろうなというのがその会の中での話でした。

それと、少し違いますが、物価高騰のために、実は給食費を上げないといけないという状況になってきてます。

このことから、給食費は上げます。ただ、給食費は上げて、今度プラスとなる部分に今回の分を補填しようという方法もあると思いますし、上がって市で補填するんだったら、結果、上げなくても一緒じゃないかっていう感じがすると思うんですが、どこに違いが出るかっていうと、これをずっと出し続けることができるのかというのが一つありますが、上がった分に関して、先生方の分は上がった分をちゃんともらいます。あくまでも、子どもたちの分は、何とか市のほうで補填しようという部分について検討はしています。

本市の場合、金額的に大変大きいので、今現在、ぎりぎりの状態ということです。

(國常委員)

私は普段、産前産後のお母さんと仕事で関わることが多いので、子育てっていうところなんですけども、産後ケア事業を拡充しますっていうところで、これからのところに書いてあるんですけど、香南市に、産後ケアの日帰りと宿泊の施設が出来て、お母さんたちからもすごく、ありが

たいていという声をたくさん聞いているんですけども、やっぱりまだ香南市内に一つしかないので、だんだん予約も取れにくくなってきているのかなというのを、産後ケアされてる助産師さんと話していて感じていて、この事業拡大で、拡大をしていくってなっても、産後ケアの受皿がいっぱいになってしまったら、どうなんだろうなっていうところで、その受皿を今後どのように増やしていくっていうのも一つ、大事なんじゃないかなというところで、高知市にある事業者さんとかの産後ケア施設は今も本当に、産後ケアの予約が開始から 10 分で全部次の月が埋まってしまうみたいな、クリック戦争みたいになっているみたいで、本当に「今しんどい」とか「今必要」で、産後ケアにちょっと日帰りで行きたいってなっても、満席で入れませんってなったら、本当に必要な人に必要なものが届けることが難しいんじゃないかなと思うので、そういう受皿を増やすっていうところも、何かもっとあっていいんじゃないかなっていうように思いました。

(健康対策課 伊藤課長)

先ほど言われましたように、香南市内にも待望の 1 か所、助産施設、それから、産後ケアを提供できる施設が出来ましたので、市民の方の利用件数っていうのが、昨年度と比較しまして、大幅に伸びております。

昨年度はショートステイも 18 名の方が利用されていまして、デイサービスのほうも 10 人だったのが、今も使用利用件数、申請件数は、60 件、70 件近くになっております。

なので、香南市内にできるっていうことはやはり、利用のしやすさっていうのがあったのだなというふうに実感をしているところです。

市内事業者の方はできるだけ香南市の方に利用していただきたいということで、現状、市外の受入れをしていない状況で、やはり、助産も始まってきたので、今後予約がとりづらい状況も出てくるのかなとは思っておりますが、今医療機関では、助産師さんたちがどんどん退職をされていまして、県内で出産ができる医療機関が本当に減っています。

高知県下で 4 か所か 5 か所ぐらいしかなくなっているという状況の中で、それまで病院で助産師を続けておられた方が、どんどん退職して、個人で開業されている方もいらっしゃいます。

香南市のほうでも、市内の事業所は 1 か所ですけれども、今後、高知市の東部に新しくできるという事業者とも契約をさせていただきたいというふうに思っておりますし、高知安芸病院のほうも新たに産後ケアを実施するという事で本格的に今 PR 活動をしているような状況で、契約施設というのが、今後、増えていくというふうに思いますので、香南市のほうもいろんな施設と契約をさせていただいて、その中で、ご自身に合った産後ケア提供施設を選択できるような環境づくりはさせていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

(小笠原委員)

わくわくバッグ事業のことで、個人的に思ったんですけども、私はすごく疑い深いので、これを通じて生協さんがうちに、営業をかけてくるのではないかなと思ったりするところもあるんですけど、この事業を通じて、子育てしやすい香南市に繋げていくっていうところが目的だと思うのですが、せっかく健康対策課さんと農林水産課さんが一緒になってお米まで準備されて、やるというようなことだったら、これを前に出すより、先ほど廣岡委員が不安に思ってたことに対する何か対策であるとか、三木教育長がおっしゃってたようなプラスアルファの給食費のほうをここに載せるというか、こんな事業の中、こんなのもあるよっていう見せ方にしたほうがいいんじゃないかなとちょっと感じたところです。

この資料に、ドーンと載せるべき事業なのかなと感じたところです。

恐らく、このバッグがあるからといって香南市で出産しようと思わないと思うんですね。

これから香南市で子育てをしていく中で、こんな事業もあるし、教育長がこんなふうに考えているとか、市民が不安に思っていること、こんなこともあることに対して香南市は真剣に考えてまわすっていう内容をここに書いたほうがいいんじゃないかなと思いました。

(石筒委員長)

優先順位というか、市民の方が1番求めているところがやっぱり上位に来る方が、分かりやすくなるということですね。

この取組のところ、表現の仕方もあるでしょうし、ちょっとその重点の置き方というか、そこは整理が必要だと思います。

(健康対策課 伊藤課長)

ご指摘ありがとうございます。

実際本当におっしゃるとおりだと思います。

香南市子育て見守り便、わくわくバック事業ですけれども、実際こうち生協さんのほうが中心の事業で、高知市さんがもともと生協さんとやっている事業で、生協さんは、やはり自分ところの商品を知ってもらいたいという思いで、高知県下にどんどん普及していきたいという思いがあり、香南市としては、特別栽培米も届けたい、それから赤ちゃん訪問を既に実施しておりますので、せっかく商品がいただけるのであれば、そういったものも活用してもらったらどうかということで、お互いがウィン・ウィンという状況の中で始まった事業です。

香南市としましては、特に予算化というものもあまりなくて、お金もかけてないけれども商品が無料でいただけるっていうようなところで助かる人もいらっしゃいますし、今後、生協さんの商品もっと知りたいという方にはお得感があるのかなというふうに思います。

決してこれをする事でその不安感を解消できるというのではなく、健康対策課としてはもともと赤ちゃん訪問で、全ての妊婦さん、それから生まれてきたお子さんに対して保健師が全訪問をしまして、不安なこととか、悩み事の解消をしておりましたので、もしこれがなかったとしても、その乳幼児期の不安については伴走型で行っていたと健康対策の事業で言えばそういうふうな状況にはなります。

なのでこれを全面的に、おっしゃるように打ち出しするってところが、私も健康対策課としても、生協さんとの連携事業の中で出てきたことなので、ここまで、ここに入れないといけないうのかなという疑問もありつつのご説明にはなりました。

(石丸委員)

資料4の空き家対策、空き家バンクへの登録なんですけれども、僕も農家でして、農家で後継者もいなくて県外へ出ている方の、農家の母屋等、古民家の空き家が増えていきつつあります。そういった中、一般家庭、お勤め人のお家と違ってやはり、農家の家の場合、空き家バンクには登録しにくいという部分があると思うんですけど、その登録件数等はおわかりか。

また、県外から来られてる方は、逆にそのような家を希望する方もおられると思いますけど、農家の家、古民家等の登録件数というか、どういうふうな状況になってますか。

(住宅政策課 浜田課長)

ご質問ありがとうございます。

登録件数につきましては資料1のほうでも報告があったと思いますが、10月末で4件ということでしたが、事務局からも説明がございましたが、10件程度は登録について前向きに進めているということで、現時点では7件の登録があつてございます。

目標には達していないところではございますが、少しでも登録件数を伸ばせるように、様々な掘り起こしを今進めているところでございます。

ご質問のございました、農家住宅といいますが、古民家的なものもありますが、登録が当然出来ないわけではございませんので、母屋があつて離れがある、お風呂も外にあるでありますとか、そういったことも含めて、市のほうにご相談いただければ、登録の方法の要件、また仕方もございますので、その辺はケースバイケースでご相談にのらせていただきたいと思います。

そういったケースがございましたらご一報いただければと思います。

(江口委員)

子育てのご意見が多いかなと思いながら伺っておりました。

なかなか多分、市のほうも財源がなくてね、大変なんだろうなとは思いますが。

県もいろいろやってる部分もありますが、子育ての意見が結構多いので、最初に小笠原委員からも出ました「働く場所」といいますか、アンケートに関することなんですけれども、説明でもすぐ専門学校や大学とか、よそに出ていった段階での働きかけという部分の話も結構出てくるかと思っています。

そういうものを充実させていくことが大事だというご説明が結構あるんですけども、要は、なかなかそれを多分、香南市単体ではなかなかしにくいのかなっていうのもあります。

産業政策みたいな部分がありまして、県も同じようにまち・ひと・しごと総合戦略というような形のものがありまして、高知県は元気な未来創造戦略という名称ですが、県としても、来年割と、子育ての部分もあるんですけども、思い切って、仕事を通じて、若い人、特に34歳以下の人口を増やそうというのをやろうとしています。

なぜかというと34歳以下の人口というのが今、県下で、毎年3,000人、4,000人減ってるような状況にあります。

34歳以下の人口は約16万人半ぐらいいるんですけども、毎年3,000人から4,000人が減少している。

なかなか、県としても、知事等の発言でもありますけども、県行政の最大課題だということで取り組んでおるんですけども、なかなかそれが治まらない状況で、特に、20代後半の方々が就職してこっちで働いても、また県外へ行ってしまうというような数字も出てきております。

そこを食い止めなきゃいけないという部分の中で、やはり産業政策にだいぶん力を入れなきゃいけないということで、来年度、県としてもいろんなことに取り組み、より魅力のある企業を増やそうとか、県外に就職するのを食い止めるために県内転職を進めていきたいと思いますとか、いろいろなことを進めています。

あとは、よくありますけども若者の所得を増やすためには高付加価値型経済といいますか、企業さんのほうにも、もっと稼げるような部分、ITというかそういうのも入れてやっていただく、デジタルの力を入れてやっていただくとか、そういう部分で、かなり企業さんのほうに力を入れてやるようなことを考えております。

そういう部分で、このアンケートを見ましたらやっぱりその、より就職を意識する世代ぐらいになってくると、どういうところに働き場所があるんだろうかっていうことを、ここの香南市で働けるんだというところをもう少し訴えていったほうがいいというふうに思ってますので、ご意見であったんですけど、大学生だとか、学校に通っている方、20代後半の方々と、何か市がつながる仕組みみたいなものを考えていただいて、そういうものから市内の企業さんを紹介するとかというところの取組を、ぜひ進めていただきたいなというふうに思います。

これの提案でございますのでよろしくお願いします。

(別府副委員長)

本市で言えば、商工観光課のほうで、城山高校で企業説明会なんかも行っていると思いますけど、香南市の子どもが通ってる高校は、高知市や山田高校が多かったりするという面でいうと、香美市の山田高校等で、企業のマッチングというか説明会をやるっていうのもあるのかなと思うが、そこはうちの範囲じゃなくなるという部分もあると思いますが、いかがでしょうか。

(商工観光課 萩野課長)

副市長がおっしゃっていただいたとおり山田高校というところになると香美市でやってる取組が主になってくるのではないのでしょうか。

香南市から山田高校に通われている生徒さんに向けて、例えば、香南市の地域の課題なんかを学ぶ探究の授業であったりというようなところについてはこれまでも連携をさせていただいておりますが、だからできる、出来ないというのはちょっとわからない部分もありますが、基本的

には、やはりそこは、県に音頭をとってもらいたいというのが正直なところであります。

(江口委員)

ぜひやっていただきたいと思うが、例えば、先ほどありました、成人式で帰られている方っていうのは、香南市出身の方であられる可能性があるんで、そういう若い方、これから就職を控えているような方々と、何かつながりを持てるようなものが出来ないかなというのが一つあります。また、小学生等に向けた取り組みにおいては、割と、そういう教育をやられてるのは、県下いろいろありますけど、それよりもちょっと上の、今回アンケートをとったような方々と何かうまく、連携なり、情報提供なりが出来て、地元就職する、何か、そのようなことが出来ないかなというところが一つあります。

そのイメージでいくと、多分香南市でいくと、恐らく、大学とか専門学校になっちゃうともう市外とか、特に県外に行っちゃうので、そのタイミングで、いろいろ県外に行っても、香南市の情報を送るとか、そういうふうなイメージもありますし、例えば、インターンを紹介するとか、何かできるのかとか、いろいろあるかと思いますが、県外に出ていった方を何とか戻したいということであれば、何らかの形のつながりというか、できるようなことが出来ないかなというところを思っています。

(別府副市長)

香南市で生まれてずっと香南市に居て、本当に就職までっていうことはなかなか難しくて、やっぱりどうしても大学とか専門学校でいくと、本市にはないので、1番近くでいくと高知工科大が高知大学農学部、または高知高専になりますが、やっぱりどうしても、他の選択肢等で県外に行ってしまうので、そこはどういうふうに、つながりを持っていくのかというのは本市の課題だと思いますので、検討したいと思います。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

昨今の大学生の就職事情も大分変化していて、大学2年生には本格的な就職活動が始まっていたりと、どんどん変化している部分もあります。

いろいろ情報交換とか情報共有等、そういった、県内に残りたい学生も多いのと県外出身で県内に残るケースが最近増えてきていますので、この若い世代、大学生、それこそ卒業した後の特にUターン希望者に向けた政策なんかも今回の拡充事業の1番左上のところにもありましたけれども、来年度はそこについては、いろいろと意見交換を含めて検討していただければと思います。

その他いかがでしょうか。

それでは以上で議事の2、3について、ご意見をいただいたということで終了したいと思います。

最後になりますけれども、議事4の、改定の部分ですが、ちょっと今の議論とも関係する内容でもありますので一旦説明を事務局のほうからお願いいたします。

(事務局 小林係長)

それではまず、参考資料をご確認ください。

香南市未来戦略は、皆さまご承知のとおり、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略であり、国の定める地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略にあたり、本市の「香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置条例」に基づき、策定委員会が設置され、その中で承認を得て策定をされています。

この戦略を変更するにあたっては、この条例の第2条「委員会の所掌事務」にあります、(1)

総合戦略の策定及び変更ということで、皆さまの承認をいただくことが必要となってきます。今回、昨年度策定されました未来戦略のうち、一部を改正したいことから、ご提案をさせていただくものになります。

それでは、変更点についてご説明をさせていただきます。

まず、1点目は、資料1の1ページ及び16ページの事前復興まちづくり計画の名称やKPI等についてです。

このことについては、本日の議事1において説明をさせていただいておりますので、割愛いたします。

次に、資料5をご覧ください。

変更点は5つを予定しており、先に資料をお送りさせていただいたところです。

変更点といたしましては、表紙の黄色のラインに赤字で記載しているページに、先ほどご説明をさせていただいた資料4のR8年度に取り組む新規内容等を記載したページを差し込むことに加え、昨年度同時期に開催した策定委員会でお示したR7年度の新規事業等を示したものを追加しようと考えておりました。

しかしながら、先ほど、R8年度の取り組みに対し、様々なご意見をいただきましたことを踏まえ、今回は、防災対策課の事前復興まちづくり計画に関する部分のみを、本資料の7ページの部分の改訂について皆さまにお諮りさせていただき、他の提案させていただいた部分については、改訂を行わない形で整理したいと思いますがいかがでしょうか。

ご検討のほどよろしくお願いいたします。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

事前復興まちづくり計画の部分のみの変更という事で提案がありましたが、このことについては採決をとるということになっておりますがいかがでしょうか。

それでは、先ほどの説明の部分について、賛成の方は挙手をお願いいたします。

～ 参加者全員挙手（オンライン古川委員含む）～

ありがとうございました。

これで改訂が決定されましたので、事務局の方で修正を進めてください。

さて、本日の議事内容については終了いたしますけれども、その他、ご質問等ございます方はいらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、一旦議事のほうはこれで終了とさせていただいて事務局に司会をお返しいたします。

(事務局 小林係長)

本日は長時間にわたりお時間をいただきありがとうございました。

それでは、最後に2点共有をさせていただきます。

1点目は、企業版ふるさと納税の進捗についての共有です。

資料6をご確認ください。

企業版ふるさと納税は、地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して香南市以外に本社を有する企業が、本市のプロジェクトに賛同し、応援していただくための寄附をすることで、法人関係税の控除が受けられるものとなっています。

本市は、R5年度より取り組みを進め、R7年度は、12月末現在で37,046千円、直近です

と、46,286 千円のご寄附をいただいております。

前年度と比較し、金額が伸びている理由としては、今年度より、物納による寄附を受け入れるようにしたため、昨年開催された大阪万博に参加する際の物品や防災関係の物品によるご寄附を企業様から頂いたこと等から、金額が増えています。

この取り組みは、R9 年度までの取り組みとなっておりますが、本市の財政状況を鑑みますと、この取り組みの強化も必要になりますことから、資料の左下にあるような課題解決のため、R8 年度からは、企業版ふるさと納税のプラットフォームである「リバー」を活用し、寄附金獲得に向けた取り組みの強化を図る予定です。

イメージとしては、一般のふるさと納税で利用されている方も居るかもしれませんが、「さとふる」や「ふるナビ」のようなサイトになります。

サイトを介したマッチングが成約になると手数料が発生しますが、本日お配りした資料 1 や資料 5 に掲載されている本市の取り組みをサイトに掲載し、応援いただける企業を募ることで、官民一体となった事業化を目指したいと考えていますので、ご理解をいただければと思います。

もう 1 点、スケジュールの確認をお願いいたします。

資料 7 をご覧ください。

未来戦略の策定委員会の予定ですが、来年度は、委員の皆さまの委嘱期間の最終年度という事もあり、出来れば 3 回の開催を予定しています。

資料に記載のとおり、R8 年度の第 1 回目の開催は、6 月 23 日か 29 日のどちらかで開催できないかと考えております。

また通知を出ささせていただければと思いますが、仮の予定としてスケジュールを空けておいていただけますと幸いです。

なお、内容は、今回確認をいただいたような形で、R7 年度の総括と、それをもとに、R8 年度途中、またはそれ以降に取り組むべき事業(案)等についてのご提案・ご意見等を皆さまより頂戴したいと考えています。

本日共有させていただきました各資料についても今一度内容をご確認いただき、どのような事業・取り組みを進めるべきか、是非ご検討いただけますと幸いです。

その後、夏ごろにワークショップ、来年の 2 月上旬に途中経過の確認を行いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、閉会の前に、三木教育長より、一言いただいてもよろしいでしょうか。

(三木教育長)

本日は、子育てのこと、学校運営のこと、保幼のことも含めた子どもたちの教育のこと、それから、教育委員会としては社会体育、生涯学習課等も含んでおりますけども、本日イベントに対するご意見もいただきました。

生涯学習課のほうで行っているイベントで夙上げのこと等もご意見をいただきまして、もう 1 回考えてみるかというような材料のお話もいただきましたが、なかなか、提案いただいた形に変えていくまでのプロセスは、正直難しいところがあります。

このことをどうやって、その形に変えていけるかといった部分がありますが、ただし、本当にそのとおりのご意見を本日いただきましたので、職員の本気、これはアンケートの回答率の部分もこともひっくるめてですが、そこからもう 1 回、私たちが見直すべき部分であるということを感じつつ、しっかりと進めていきますというところを強く感じました。

今日はどうもありがとうございました。

(事務局 小林係長)

ありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして、別府副市長、よろしくお願いいたします。

(別府副市長)

本日は様々、移住の件や若い人にいかに帰ってきてもらうか、また、子育て環境の充実について等、様々なご意見をいただきました。

ありがとうございます。

この未来戦略で、本当にまずは、市民に住み続けてもらうためのまちづくりをどう進めていくか、若い人が一旦市外に出たとしても、やっぱり香南市がえいと帰ってきてもらえるような施策を進めていきたいと思ってます。

本当に今日は、反省点でもありますけども、しっかり市役所の若い職員も巻き込みながら、引き続き、常に施策のほうを進化させていきたいと思ってます。

あともう一つの反省点といたしましては、やっぱり子育ての施策については、市としては、結構拡充してやっているつもりですけども、そこが十分に子育て世代に届いてないっていうところもあるかなと思いますので、そこは子育て施策のPRの仕方とか、そういうのをちょっと工夫していきたいなと思ってます。

今日は長時間本当にありがとうございました。

(事務局 小林係長)

以上をもちまして、本日の会を終了させていただきます。

ありがとうございました。